

寺報

龍正寺

日なた 169号

合掌光

日英



<令和 4年 6月>

宝龍会
護持会

大祈祷会法要

2022年(令和4年)4月17日(日)



1年間の報恩感謝を込めて御礼、
また新たに1年間ご守護・ご加護を
いただくための法要です。
コロナ下ご協力いただき、各自参拝
され、ご祈祷を受けられました。

絵馬には願いが叶うよう、熊手で
福をかき集め、福俵でご家庭に福
が舞い込むように、福縁増上・開運
成就を願いました。

住職一言 (春暦廿六年)

168号の続き寿量品であります。

彌陀が滅度をみて人々く舍利を供養しこここくみな^{れん}熱^{おこ}慕^{まう}をいたして渴仰の心を生ず衆生すでに信伏し貧^{ひん}道に^いて慈柔軟に一心に佛を見たてまづと欲して自ら身命を惜ます。時にわしよし衆僧ともに靈鷲山に^いはずわれ時に衆生にかたる常にここにあって滅せず方便力をもつてゆえに滅不滅ありと現す餘國に衆生の恭敬し信樂するものあればわれまたかの中においてために無上の法をとく汝等これををかずしてただわれ滅度すとおもえりわれ諸の衆生見れば苦海に没在セリかるがゆえにために身を現せずしてそれをして渴仰を生ぜむその心戀慕するによつてすなまちめてために法をとく神通力かくの如く阿僧祇劫においてつねに靈鷲山より餘の諸の往處にあり

(解説) 仏がハシムるゝ、仏の慈悲の洪大であつたことを思ひてして仏にあひたハシムの心もちがあつる。そこでご生前の恩に感謝して仏の滑をあつめて供養をする。みなことごく悉く慕ひ思ひをして仏にあひたハシムの渴仰の心をおこすのである。仏のなきのちに仏の生きていられた間に説かれた教を學んでそれを信ず

るようになり、仏に信伏するようになる。そして心がまっすぐになり、わがままな
心もちがなくなつて柔軟になる。心がやさしくなれば「軟かい物には痕がつき
やす」いように、よい教を聞くとただちに深い印象が残るのである。その柔かい心も
ちの内から身命を惜まぬという勇気がでてくるのである。仙様と一緒にいるよ
うな心もちになりたいと身命を惜します。仙と共に住みたいというふうに一心に思いつめ
るようになる。そういう人が多くなれば「自分も自分の弟子の大勢僧侶とともに靈巖山にてで
くる（人の世の中のこと）」。そして「自分はいつもこの娑婆世界において、このところを去りはない」大
勢の人間を教え導くにはある時は自分の姿を見せることも必要である。またある時には仙
が永遠不滅であると「うことを教えさせることも必要である。そして尊くのはすなむち神通力
である。この娑婆世界以外の所で人あって仙を敬い慕うてどうか教をききたい法を学びた
い」という心であれば、仙はまだその中に無上の法を説くことでもある。お前たちはこの理由
を了解した上で仙さまはいなくなられたつまらないと思うかも知れないが、それは間違
だ。私が信仰する心もちになれば、ハッキリして仙とともにいるような心もちになれるのであ
る。私が大勢の人間を見ると苦しみの海の中にいますといふようなものである。多くは苦しみの
中にいたって頭をだらるゝのである。まず「しても苦い金があつても不満足地位が高くても
また低くともされどれ不満足である。それであるから仙さまは容易に姿を見せない。仙様
に近づきたい仙さまの教を得たいといふ心もちをおこせるのである。大勢の人々が
目が覚めて仙さまを恩い慕うようになるとすなむちにて三法を説くのである。仙の
不思議な力「神通力」というものはどうものある阿僧祇劫といふ非常にながい毎月間
といふ中で人が真心をもって教を求めるところ（靈巖山）おそれいその他もうろの住所で
教を説いているのである。

(続きは次号で)

右掌

「データへの学び」

NO 1

私は少し前から... こんな事を思ってます...

「法華経の信者として歩いて行く」と自身で
思ってますし、寺院にてお経とお顕日を唱えている
事だけではなくか・法華経を歩く事には何が違うか?
また日常生活の中で実践していく為には
何がいいのか?

そんな疑問があります...

私は毎月13日、18日の両日の御礼祭に参加させて
頂いております。

その日は龍正寺にて参拝させて頂く時間には
大抵私が私ひとりであります。時には外の通行人に
届く想いで大きな声で唱えたり声もあります...
小さな声で唱えたり人に布施食が襲い来たりして
無人に近づけようと大きな声で唱えたり...

そんな私も両日の御礼祭に参加させて頂くと
その時にいか会ひの方々と久々に会ったり...
近況を開けたり嬉しく思ったり...

そして礼祭後にお茶を載せた談話室で何気なく
時間の中にも感慨深くなる言葉を戴けます。

二信徒の方々の体験談を通して耳にする言葉の
端々に「これが実践以心事に繋がる」と随所に
ヒントとなる想いがありす。

きっと今までも張山のヒントが講演や談話の中
あふて居たのですか…私に聞く心が無から事に
気付かぬれず。

久しぶりの体験談や言葉が私に勇気をもたらす…
前向に生き抜く想い気持ちに変わり、自発への帰路
に進む想いになりました。

私などは10の言葉を聞いても半分を実践できなか
でいます。

多くの人が日常生活の中で挫折や不安や迷いに
心が重くなると感じますが…皆様もこの両日の
縁日は足を運ばれており少しの時間でも皆様と
お茶を頂き談話されはどうでしょうか?

何か日常生活を生き抜くヒントや考え方を収めようと
思います。

「一切は心より転じる」

お釈迦様が悟らせた膨大な縁や力は、二千五百年を経た現在でも、私たちの回り全て前ています。

言い換れば、お釈迦様が悟りという料理を作り上げる材料になつたやさしさ、勇気、裏切り、ライラ、自己顯示欲、諸行無常などの材料はすべて、そのまま私たちの前にあるのです。その材料を使うか否かは、私たち次第です。

上手に使えば私たちも悟りという料理が作れます。これが私たちが成仏できる根拠の一つですし、そのためのレシピが仏教の教えといっていいでしょう。

私たちが日常で経験する嫌な思いは、ことごとく自分の思い通りにならない事が原因です。自分の都合通りに物事が進めば、嫌な気分になることはありません。

全では、あなたの心が決めていることで、仏教では「一切は心より転じる」とします。

誰かが、あなたに懲めと命令しているわけではなく、怒れと穢きつけているわけではありません。あなた自身がそうしているのです。

同様に、心穂ぎやかにするのも、あなたをおいて他

（はいません。

「徳のある人は己を責めて自己を高め、徳のない人は他人を責めるだけで自分磨きの材料にしません。

『布施』の本から抜粋した内容です。もともと六波羅密の言葉が気になっていたこともあり、お寺に置いてあったこの本に目が留り、読ませていただきました。

全ては自分がどう物事を捉え、どう言葉、態度で示していくか。最近、15年前の日記が出てきて読み返していました。昔は自分の中の感情を書いていました。友人や別れた夫の言葉が書いてあります。ありがたい言葉を伝えてもらっていたのに、その頃の私は幼稚であったため、ありがたい言葉が私の心(意識)に入っていないかったのだ"と反省しました。

その事をお詫させもらうことで、私に足りないと書いただけで行動しないところ、気が付いたので"あれば"行動に移すことのアドバイスを受けました。

行動をおこすのも私の、ひとつであるということを教えられました。

「あたりまえ」

似前：どこかを参考を致した折に
いただいた詩です 枠より見つけたのです
見つけ出したことは自分へのいましめでしょうか？

あたりまえ
みんなすばらしいことを
みんなはなぜよろこばないのでしょうか
あたりまえであることを
お父さんがいる
お母さんがいる
手が2本あって 足が2本ある
行きたいところへ自分で歩いてゆけよ
手をのばせば なんでもこれる
音がきこえて 声が出る

こんな幸せがあるでしょうか

しかしそれを誰もよろこばない
あたりまえだと… 笑って すます

食事がたべられる

夜になるとちゃんと眠れ そして又朝がくる
空気をむわいぱいにする

笑は泣ける 叫ぶこともできよ

走りまわれる

みんなあたりまえのこと

こんなすばらしいことを

みんなは決してよろこばない

そのありがたさと 知っているのは

それを失くした 人たちだけ

なぜでしょう…

あたりまえ…

神仏さまよりの尊い守護のおかり
さまの「命」に心よりありがとうございます
奈じます 何とも何一つあたりまえではな~ようです

龍正寺さんのおふくろさまよりのご法説を
重ねてやりますや、「あたりまえ」の説のようにこと細々の
大切な学びです じ法力の中より少しづつの実践より
行動が変る 行動が変れば習慣となりその習慣が
人の人の季りとなってゆくのではと思つてみます
何事にも文句少くなくしてありがとうございますと云つてよろしく
巡ぐらす人は「惡道」落ちなんと学びます
わたくしも若い頃は、じと行動が併せてませんでした
50代ダメでした 60代もまだでした 70代より少しづつ
学びがありが大きくなってきました 法ヶ経の学びのありが
りさまにようひいづいの今までござります
おがただし・情義の励げしい時代ですが 時代の
移り変わりにも自己・じを向けてゆく大切さを学びました

龍正寺さまはお若い信徒の方々が多く
いらっしゃりのことについて思つてみます
お若い頃よりの信仰の道が近元に統一で
ゆく人生はご自分の宝ではないでしょうか
すべての事柄は尊い方題目のお上げ
さよりでござります

ありがとうございます

南無妙法蓮華經

合掌



心願成就

今年5月 永年の心願が成就しました。

龍正寺との縁を頂いてからの信仰の道は、大変厳しいものでした。主人の両親には、「嫁の立場で説のめかん宗教をこの家に入れるとは！」と猛反対でした。身をかくすように龍正寺へ足を運び、御題目を唱えました。

平成十二年に舅さんを見送りました。その時に、"お前達の代になつたよ改宗していい！"と言いました。その姑さんは平成二十年に他界しました。

舅さんが亡くなり、からは、毎日の自宅での回向は佐口上人にお願ひしていましたが、仏壇は本願寺のままでいました。いつか、日蓮聖人様・鬼子母尊神様・七面大明神様を御安置させて頂きたいと思っていました。

しかし、このままの信仰でよいか？何度も何度も、姑さんの気持ちを考えるたびに、その思いを受け入れるだけの先祖供養をしていいか！何かあっても御題目を唱えていい信仰心はあるのか！代々続いて来た我が家のお先祖様は、御理解・納得して下さるか、喜んで下さるか！ずっと考えてきました。

今年の春彼岸、自宅で回向後に、ふと主人が、"御上人さんそろそろ仏壇をさめようと思うのですか…。"と相談しました。私は"寝耳に水"でアッカリ! 仏壇は本家ですので大きな仏壇です。とても買、替えするには困難でした。

佐口上人より"少し手入山するだけで充分ですよ。"と言われ事柄はあ、と、う間に進みました。仏壇屋に依頼日・修理が済み完成した日、全てが仏縁のある日にちでした。

姑さんの月命日、身延山久遠寺参拝後、日蓮大聖人様御尊像・鬼子母尊神様・七面大明神様掛け図を購入させて頂きました。

そして5月29日舅さんの二十三回忌を仏壇の日蓮大聖人様鬼子母尊神様・七面大明神様の目前で供養が出来ました。

御住職より「よく頑張りましたね。実はこの件は御主人から去年少し話しに出た事もあるんです。」

「今年は日蓮大聖人満年齢で生誕800年ですよ。このような年に心願成就出来た事は、御先祖様・御両親も大喜びですね。」と言えました。

この年数は見宝塔品の中「此經難持」末法に法華経を信じ

行じ続けることは最も難しく、覚悟のいることである。」と強く
強く戒めている。たかぶこそ たとえわずかでも法華経を持つ者に
対して、すべての仏様が喜び歎め讃えられる…。法華経を持つ
と「覚悟は我が心にちかう事」、「日蓮宗 朝夕のあつとめ」に書か
れていた言葉を支えに御題目を唱えてモテ良か。たと思ひま
した。

これからも、決して慢心する事なく日々感謝、精進していき
たと思ひます。

〈6月 行事予定〉

- 6月 5日 (日) 13:00 ~ 役員会
- 13日 (月) 10:00 ~ 宗祖日蓮大聖人報恩会
- 18日 (土) 10:00 ~ 鬼子母尊神
七面大明神) 祈祷会

〈6月 住職の予定〉

寺院＝法務

〈6月の予定〉

6月 5日 (日)	役員会終了後	準備
6日 (月)	各自の時間で	清掃、準備
7日 (火)	↓	↓
12日 (日)	法要後	片付け、準備
13日 (月)	各自の時間で	清掃、準備
14日 (火)	↓	↓
17日 (金)	↓	